様式 A-1
(FY2024)

2024 年 11 月 15 日

サイエンス・ダイアログ 実施報告書

- 学校名・実施責任者氏名：福井県立美方高等学校 木村文彦
- 講師氏名：Jonathan Bresson
- 講義補助者氏名：いない
- 実施日時：2024 年 11 月 5 日(火) 10:55 ~ 12:45
- 参加生徒：1 年生 26 人、 2 年生 20 人、 3 年生 0 人 (合計 46 人)
備考：(例:理数科の生徒) 1 年生中高連携クラス 2 年生探究クラス
- 講義題目：身体と感情の関連に関する社会学および人類学入門
- 講義概要：自己紹介に続いて、身体動作と感情の、国(文化)の違いによる類似性と相違点について、さらに社会学および人類学の研究手法を、フランスと日本における具体的な振る舞いの例を挙げることを通して紹介して下さった。また、フランスにおける日本のイメージ、アニメ、漫画の認知度の高さとともに、作品の中に描かれている身体動作にも独自の文化的背景があることを紹介された。
- 講義形式：
対面 ・ オンライン (どちらか選択ください。)
 - 講義時間 90 分 質疑応答時間 10 分
 - 講義方法 (例:プロジェクター使用による講義、実験・実習の有無など)
生徒同士どうしのグループ活動を含む講義
 - 事前学習
有 ・ 無 (どちらかに○をしてください。)
使用教材 講義を理解する上で必要な用語の解説資料(A4 サイズ 10 ページ) 英文 4 ページ+和文 6 ページ
- その他特筆すべき事項：
講演ではプレゼンテーションソフトを使わず、語りと身体表現のみで完結された。一部の専門用語を除いて極力平易な英語と、身振り手振りで伝えようと努めて下さった。グループ活動では、社会的抑制の中で個人の欲望がどのように発現しているか、生徒たちが読んだことのある漫画や観たことのあるアニメーションの中の事例を共有した。

Form B-2
(FY2024)
Must be typed

Date (日付)
06/11/2024 (Date/Month/Year: 日/月/年)

Activity Report -Science Dialogue Program-
(サイエンス・ダイアログ 実施報告書)

- Fellow's name (講師氏名): Bresson Jonathan (ID No.P 23313)

- Name and title of the lecture assistant (講義補助者の職・氏名)

- Participating school (学校名): Mikata senior High school

- Date (実施日時): 05/11/2024 (Date/Month/Year: 日/月/年)

- Lecture title (講義題目):

Introduction to sociology and anthropology of body and emotions

- Lecture format (講義形式):

◆ Onsite ・ Online (Please choose one.) (対面 ・ オンライン) ((どちらか選択ください。))

◆ Lecture time (講義時間) 90 min (分), Q&A time (質疑応答時間) 10 min (分)

◆ Lecture style (ex.: used projector, conducted experiments)

(講義方法 (例: プロジェクター使用による講義、実験・実習の有無など))

Talk, exchange with students and work groups.

- Lecture summary (講義概要): Please summarize your lecture within 200-500 words.

This was an introduction to the main principles of sociology and anthropology. I emphasized the tension between the individual and the collective as the structure of social relations, presenting Goffman's approach in a most simplified way. The idea is to start thinking the organization of society into compromises to create predictable margins. On this basis, we looked at the basic principles of cultural relativity and the anthropology of the body, highlighting the difference between feelings and emotions, and indeed emotions as a marker of cultural analysis. This allowed me to deal with violence in the background along the talk and to conclude with Japanese martial arts as a cultural mean to deal with this tension between individual freedom and collective life, which is a main principle of Budo.

◆ Other noteworthy information (その他特筆すべき事項):

- Impressions and comments from the lecture assistant (講義補助者の方から、本プログラムに対する意見・感想等がありましたら、お願いいたします。):